総　　説

平成6年に期待する

富山県農村医学研究会会長　越山健二

平成5年は天候不順，米不足，不況，政権交代，国際的には P.K.O やガット問題など，まさに不額実，混迷の年であった。そんな中で特に農業は明日への展望が拓けず，大きな苦悩の中にあるように思う。

大正から昭和初期までに育った人は贅沢は敵だとの風潮で食や物不足の生活に耐えてきた。敗戦を体験し，昭和30年代頃から始まった高度経済成長は効率化，省力化のもと生産第一の時代をつきすすみ「消費は美徳」がすっかり身につき，世界一の富裕国といわれるようになった。

不額実，混迷の中で私共はこの富裕国にふさわしい健康で安らぎのある文化的な明日を求めなければならない。

健康は私共が目指す，身体と心と環境の3つの視点からみれば，身体も心も共に衰弱し，環境は自然環境，社会環境共に汚染され，課題が多く悪化の傾向を深めている。富裕の中にあって健康は3つの面で何れも虚弱となり改善の方途は困難で，大きな意識の改革も必要なときのように思われる。

この混迷の時代に重要と思うのは農業のもつ役割である。農業は自然と人間との共生の中で日本民族を育て，独自の文化を築きあげてきた。経済力がなく，科学，技術が未熟な時代は耐え，困窮の生活であったが大自然の中で大地を耕しその中で天地の愛や，生命の尊厳を知り感謝，報恩の気持ちを育ててきた。清貧の思想もあり民族固有の衣，食，住の文化を創造してきたのである。農業は国土を保全し，災害を防ぎ，水の確保や，美しい自然の風物を守りそんな中でうるわしい心を育ててきたのである。いま米を中心とした農業が論議の中心であるが，何物にも替え難い農業の果たす役割を見直し重視したいのである。

私共農村医学研究会もまた，健康の求める原点にたちかえり，いま物質中心の思考から，ややもすると無視され，忘れかけている健康の求める3つの面から見直し，再出発の年にしたいと思うのである。